

エポクロス 相溶化剤 技術資料

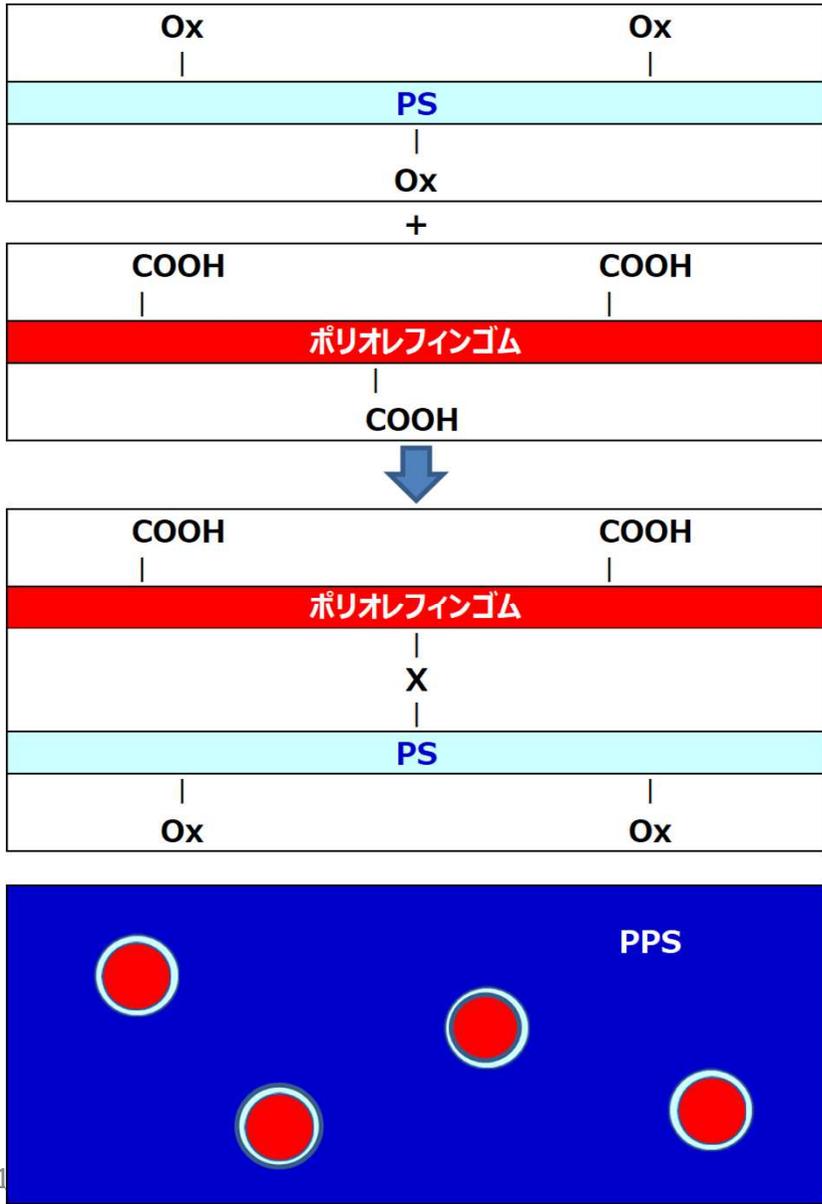
株式会社日本触媒
ベーシックケミカルズ営業部

内容

1.エポクロス 相溶化剤 作用機構

2.エポクロス 相溶化剤向け 製品、開発品

1. エポクロス 相溶化剤 作用機構



エポクロス RPS-1005

酸変性ポリオレフィンゴム

加熱混練時、RPS-1005と
反応後の酸変性ポリオレフィンゴム
(PPSと相溶できる
PS成分が結合)

PPS/酸変性ポリオレフィンゴム
/RPS-1005を加熱混練後
(PS成分と結合した酸変性
ポリオレフィンゴムが
PPSに微分散)

2. エポクロス 相溶化剤向け 製品、開発品

	製品	開発品		
	RPS-1005	RP-61	RA-45	RP-7 (改) (仮称)
主鎖骨格	ポリスチレン		スチレン/アクリロニトリル 共重合体	PMMA
重量平均分子量 (ポリスチレン換算)	約16万	約2.5万	約7万	(約3万)
オキサゾリン基濃度 (mmol/g·solid)	0.27	1.35	1.35	(1.35)
熱分解温度 (°C、5wt%減量 in air)	約320	約320	約325	(約320)
相溶するポリマー (「海」ポリマー)	PPS、PPE、HIPS、PSなど		AS、ABSなど	PC、PA6、PA66
	スチレン系樹脂		極性樹脂	
反応可能なポリマー (「島」ポリマー)	カルボキシル基含有樹脂:PET、PBT、PLA、PA6、PA66、酸変性PPなど フェノール性OH基含有樹脂:PCなど 芳香族チオール基含有樹脂:PPS etc.			

サンプル供給可能量 (現状)

RPS-1005(製品) : kgオーダー

RP-61、RA-45 (開発品) : 100g程度

RP-7改 (開発品) : 現在開発中

22年Q2 100g程度予定